

各常任委員会行政視察報告

総務企画委員会

視察日 7月9日～11日
千葉県白井市 予算編成過程公表の取組について、小学校区まちづくり協議会設置の取組について、しろい市民まちづくりサポートセンターの取組について
東京都多摩市 決算事業に関する事業カルテの取組及び第10次行革推進計画「行政マネジメント計画・DX推進計画」について、多摩市民活動センターについて

予算編成過程公表の取組

白井市では、当初予算編成の透明性を図るため、当初予算の要求状況と査定状況の概要をホームページに掲載し公表している。各課からの要求額、財政課によるヒアリング後の要求額、部長協議時、三役協議時の要求額を明らかにし、決定した予算額と比較できるようにしている。
総務費、商工費等の費目別の金額の公表であり、事業別の金額の公表は行っていない。予算編成過程という行政の根幹を成す部分であり、幹事部で公開の取組で分野での情報公開の取組で課題は多いが、市民への説明責任を果たしたいという意欲を持っていいと感じた。



小学校区まちづくり協議会設置

白井市は、市民主体の共助のまちづくりを推進していくため、まちづくり支援職員制度を創設し、市の職員が、小学校区まちづくり協議会の設置や運営を支援している。
まちづくり計画の策定支援や会議の運営、事業実施のサポート等の人的支

援を行っている。また、協議会運営事務の委託費への支援として、協議会へ補助金を交付している。
まちづくり協議会では、防災訓練や高齢化による地域の担い手不足という課題は本市と共通であり、行政による積極的な支援の在り方として参考になる取組であると感じた。
また、しろい市民まちづくりサポートセンターも視察させていただいた。

決算事業に関する事業カルテの取組

多摩市では、事業を実施した所管課が事業カルテによる事業評価を行っている。予算策定時に計画した目標、実績状況、改善点についてまとめ、PDCAサイクルを回し、市民にも公表している。また、議会においても各委員が毎年、評価対象事業を選定し、設定された目標の達成状況、成果指標等をチェックし、事業評価シートをまとめていく。
当局、議会とも事業ごとの詳細な評価まで市民に公開している点は先進的であり、本市も取り入れていくべきだと感じた。
このほか、第10次行革推進計画「行政マネジメント計画・DX推進計画」についても説明を受けた。

KITAKAIさんぽ館

多摩市では、廃校となった小学校の施設と敷地を市民活動・交流センター、多摩ふるさと資料館として活用している。旧教室を創作室や音楽活動室とし、市民活動の場になっているほか、体育館やグラウンドも利用できるようにしている。カフェを併設し、夜間や休日には酒類も提供していて、市民が集う憩いの場として利用しやすい雰囲気がつくられている。交流施設の整備の際の参考となると感じた。

(今野孝顕)

文教民生委員会

視察日 7月1日～3日
岐阜県岐阜市 岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設「ツナグテ」について
愛知県岡崎市 校内フリースクール「F組」について、岡崎市立新香山中学校

子育て支援施設「ツナグテ」

岐阜市中心部にある、令和5年3月に完成した、柳ヶ瀬グラスル35。1・2階は商業施設、3・4階は公共施設、5・35階はマンション（335戸）。その4階にある子育て支援施設として「ツナグテ」は5年4月にオープンした。「あそび場はまなび場」をコンセプトにし、遊びを通して学び、成長し、探求力を高めることを目指した施設である。

天候に関係なく親子で遊べる場所、就学前の子供の一時預かりや、常駐する保育士による無料相談も受けることができる。目標来館者数は年間20万人で、7年度は、17万6000人の方が来館している。

大型遊具やボールプール、様々な工作体験ができるアトリエが設置された有料のキッズエリアのほか、無料で利用できるファミリー広場として、図書館コーナーや座ってくつろげる空間が整備されている。

若い人たちが来なくなるような開放的でおしゃれな雰囲気もあり、たくさんの方に利用されていることが分かった。

駐車場の課題等もあるが、当初の計画どおり8年4月から指定管理者に運営を委託するため、近隣の商店街とのさらなる連携を模索するなど、今後の利用促進が期待される。

校内フリースクール「F組」

全国的に不登校児童の増加が課題となっており、岡崎市教育委員会では、義務教育は全ての子供たちに等しく普通教育を実施するために存在していると考え、子供が学校に適應するのではなく、学校が子供に適應するという理念の下、校内フリースクール「F組」を令和2年度に設置した。

「F組」は「Free・Fly・Future」の頭文字を取ったもので、生徒に自己決定の場を与え、安心した環境の中で学び、社会的自立へとつながっている。

空き教室を使用し、初期費用としてソファやテーブル、椅子等で50万円、維持費は支援員の人件費として年間60万円ほどとなっている。

F組を利用する生徒は時間割を自分で決めて、自分で来られるときに来て、帰れるところで帰るというように、自分で決定したことを達成させることで自己肯定感を高めている。

先生達だけではなく、生徒の間でもF組の理念が広まっていて、学校全体で温かい雰囲気がつくられていることを感じた。5年度に岡崎市内の20校全ての中学校に設置が完了している。



(阿部 誠)